様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：２７１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２４４３

研究課題名（和文）20世紀前半の日中における小品文形成に関する比較研究-文学・教育・出版を視座に

研究課題名（英文）Comparative study on development of familiar essay in China/Japan early in the 20th-literature,education,and publication-

研究代表者
鳥谷　まゆみ（TORIYA, Mayumi）

北九州市立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：００５８０５０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：　研究期間前年度を通じて、国内・国際シンポジウムにおいて合計10回の口頭発表を実施した。国内外の研究者との学術交流を通じて、最新の研究に触れると同時に、関係構築をはかった。発表した論文は合計合計７本である。
　上記の発表内容を通じて、主に下記のことを指摘した。「小品文作家」と称された周作人における日本「写生文」理論の受容の実態、『夢の如し』の作者文泉子と周作人の接近。これにより、本研究課題である現代中国と日本における小品文の時代的特色と、その日中間の交流の実態の一側面が明らかになった。本研究の副産物として、方紀生に関する新資料を発掘し、論文にまとめることができたことも補足しておく。

研究成果の概要（英文）：Through ten oral presentations at international symposiums and seven dissertation presentations, I pointed out the followings;The actual situation of acceptance of the Japanese "sketch" theory by Zuo-ren Zhou and Zuo-ren Zhou’s approach to the author of "like a dream",Bunsensi.
These clarified the characteristic of "the familiar essay" in modern China and Japan, and actual situation of exchange between Japan and China. As a byproduct of this research, I discovered new data of Ji-sheng Fang.

研究分野：中国文学

キーワード：小品文　周作人　写生文　四方太　出版　教育　言文一致

１．研究開始当初の背景（①～⑥）

①日中両国の小品文を多眼的視点から比較、検討する必要性：1920 年代、中国文化は明治維新を経験した日本に倣って近代化を開始した。文章様式のひとつである小品文は、こうした日中両国における「近代」の歩みのなか共に出現しそれぞれ社会的役割を構築していった。日中小品文は近代化の産物と見なせる。しかし、従来小品文は一文章様式として扱われて研究の対象とされることが少なく、また、日中両国における小品文を多眼的視点から捉えた研究は管見の限り見当たらない。そこで本研究では小品文をめぐって文学、教育、出版という三つのテーマから相互の「関係性」を捉え直した上で、その形成過程を比較検討することにより、20 世紀前半の日中両国における小品文が持つ社会的意義を明らかにする。これにより、従来とは異なる近代日本と中国の一面に光を当て得るのであり、それが新たな日中交流の創造に繋がることを期待できる。

②中国における研究動向：文化大革命終結後の 80 年代から文化事象は再評価の対象となり、これを機に文化研究は実証的研究が可能になった。しかしその殆どは 10 年代後半の五四新文化運動期、または近代文化の成熟期である 30 年代に関するものである。特に小品文について言えば、林語堂が提唱し、古典文人的傾向を持つ「ユーモア小品文」が 30 年代半ばに流行したことから、議論の大半がやはり 30 年代に関するものである。また、魯迅がこれを「趣味的散文」として批判した（「小品文的危機」33）こともあり、小品文の出現や形成過程は見過ごされてきた。

③２の問題点：小品文は中国の「近代」の歩みのなか出現し、時代の趨勢のなか変容しながら発展を遂げた。小品文は近代化の産物なのである。そのため従来のような 30 年代小品文のみの検討では、小品文の出現や形成過程だけでなく、その連続性や時代的特色を明らかにすることはできない。申請者の考証によれば、中国小品文の源流のひとつに、実は日本小品文が位置していたのだが（鳥谷 2011）、従来中国小品文と日本小品文との関係について論じられることはなく、そこに社会史論的観点から研究が展開されることもなかった。即ち、従来の小品文研究は、多眼的視点から比較検討する機会を欠いていたと考えられる。

④日本における研究動向と問題点：日本では、日中戦争期に中国研究者を中心に中国文学の紹介が開始された際、中国小品文が注目され始める。しかし、その関心の中心は 30 年代の「ユーモア小品文」についてであった。即ち、日本における小品文の研究動向は、中国の研究動向や問題点に倣うものであり、単一的視点からのみの検討に留まる。いっぽう、日本小品文については、田山花袋（1906）等同時代人を中心に幾つか存在するものの、その数は多く無い。小品文の時代的特徴を明らかにするために、多眼的に小品文を捉え直す必要がある。

⑤最近の研究動向：最近では、中国小品文について日本小品文や周作人小品文との関わりから検討した論考（鳥谷 2011、2013）のほか、西欧との関わりから検討した論考（袁進 2011）が見られるものの、日中両国の小品文の形成過程や時代的特徴については依然明らかではない。

⑥本研究の目的と意義：以上最近の研究動向を受け、**本研究は、20 世紀前半の日中両国における小品文が、近代化のなかで人や社会に支えられ、そして呼応しながらそれぞれの社会的役割を構築してゆく諸相を、比較研究により明らかにする**。本研究は、20 世紀前半の日中両国における「文学」・「教育」・「出版」という三つのテーマにおいて、**従来とは異なる多眼的な視点から両**

国の小品文における時代的特徴や形成過程を明らかにし、日中両国の「近代」の歩みについて問い直す試みである。**本研究が冷え込む日中関係の問題解決の一助となる**ことを目指している。

以上**本研究の目的は、多眼的視座から日中両国の小品文の形成過程を解明し新見を加えることにある**。

参考文献：魯迅「小品文的危機」(『現代』第 3 巻第 6 期 、1933 年）／木山英雄『北京苦住庵記』(筑摩書房、1978 年）袁進「試論近代西方伝教士対中国文体的影響」(『東アジア文化交渉別冊』7 号、2011 年） ／田山花袋『美文作法』博文館、1906 年）／鳥谷まゆみ「白馬湖派小品文と春暉中学の作文教育」(『野草』88 号、2011 年）／鳥谷まゆみ「1920 年中国小品文形成における周作人、夏丏尊」(『周作人と日中文化史』勉誠出版、2013 年）

２．研究の目的

本研究は、**20 世紀前半に日中両国に出現した小品文が、文学的営為に留まらず、それを規定し支える教育や出版といった複数の「関係性」において、日中でそれぞれ異なる社会的役割を構築してゆく諸相について、その形成過程を比較研究により明らかにする**ことを目的とした。

本研究は、日中両国における「文学」・「教育」・「出版」という三つのテーマにおいて、**従来とは異なる多眼的な視点から 20 世紀前半の日中両国の小品文における時代的特色を明らかにし、日中それぞれの「近代」の歩みについて問い直す試み**である。本研究によって、小品文研究に新見を加えるとともに、近代日本と中国の一面に光を当て、新たな日中交流の創造に繋がる。

３．研究の方法

本研究は、平成 27～29 年の 3 年間で遂行した。前半年度は資料収集と統計作成、後半年度は比較研究アプローチの構築に力点を置いた。**本研究は、①20 世紀前半の日中両国の小品文をとりまく「文学、教育、出版」の関連資料と、そこに介在した人とネットワークの調査と整理、②①の分析及び北京大学との共同ワークショップの開催、③研究の総括として日中両国の小品文の形成過程と時代的特徴の解明とその比較、以上 3 つからなる。**関連資料の調査（①）は 3 年間を通じて行った。次年度は国際ワークショップの開催と分析（②)、最終年度は日中両国の小品文の普及経路について比較分析し、その社会的特色を明らかにした（③)。

以上の調査・収集・分析は別個の作業ではなく往還を繰り返すプロセスであった。**これらの組合せにより研究対象へ多眼的にアプローチし、日中両国の近代小品文に関する解釈へのリアリティを高めた比較実証研究が可能**になった。

３．－１　研究計画上の工夫

①テクスト分析と社会史論的観点からの分析方法の組み合わせ

研究目的を達成するために、**日中両国での調査によって得られた小品文のテクスト分析に、社会史論的観点からの分析を組み合わせて比較研究を実施**した。調査で得られた資料に応じて方法を適切に選択することが重要となる。というのも本研究では、社会史論的観点を取り入れた日中文学への研究アプローチ構築も大きな目標の一つとしたからである。**分析方法の組み合わせにより研究対象に現実的なアプローチを行うことが可能**となり、実証的結論を導出できた。

②「文学」「教育」「出版」という三つの多眼的視点からの実証研究（a～c）

当然ながら日中の学術界には、社会体

制や文化観念の相違に伴う研究動向の相違が存在する。そこで本研究では、a 日中双方に存在する資料調査に基づく実証研究、b 日中で開催される国際学会や研究検討会への参加、c 日中での資料公表、以上 abc を導入して研究を実施した。これにより従来等閑に附されている日中小品文の形成過程について実証的な分析結果を得られた。

③発展的比較研究ーこれまでに構築した人的ネットワークと日中共同ワークショップの開催

本研究は、「研究活動スタート支援」を受けて実施した初歩的研究により得られた成果（鳥谷、2010、2011）をもとに、近代の日中両国における小品文形成の様相と時代的特徴について幅広く検討する**発展的比較研究**である。

４．研究成果

本研究の学術的特色としては、第１に、社会史論的観点から 20 世紀前半の日中両国の小品文を検討していること、第２に、「文学」、「教育」、「出版」と三つの視座からの実証研究であること、第３に、日中両国を跨いだ調査と学術交流を組み合わせて実施する比較研究であること、が挙げられる。

以上のような多眼的視座からのアプローチにより得られる本研究の知見は、等閑に付されている日中小品文の構築について明らかにし、その社会的意義を発見することを可能とした。本研究により、日中交流史の一面に光を当てた。

また、鳥谷は**北京大学での修学経験**を有し、現在勤務する北九州市立大学では、中国語教学の一環として、**現代文学・文化の講読授業を担当**している。加えて、夏丏尊や散文研究を積極的に展開している紹興文理学院の研究者のほか、北京大学や社会科学院、武漢大学や香港教育大学の**中国研究者との面識をすでに得ている**。中国研究者とは定期的に学術交流を継続しており、彼らと共同で**調査、ワークショップの開催を行った。**

中国研究者と共同ワークショップ開催を通じて入手した最新の研究や情報をもとに、さらに独自で調査、分析を進めた。これにより、当初予定していなかった研究成果も得られた（例：方紀生資料の発掘、周作人と日本写生文・俳文・落語の受容とその変容等）。その**研究成果内容は、中国で公表した。今後も積極的に中語圏の研究者と交流をはかってゆきたい。**

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　7　件）

① 鳥谷まゆみ、「紙上之声與透明之文：周作人與四方太寫生文観比較論」『長江学術』2018(１)、18-29 頁、査読有、2018 年

② 鳥谷まゆみ、「周作人與日本落語試論」、中見里敬、潘世聖編『『春水』手稿と日中の文学交流―周作人、冰心、濱一衛国際学術研討会論文集』第2冊中国語論文編、199-218頁、査読無、2018年

③ 鳥谷まゆみ・川辺比奈（共著）、「方紀生のこと―『周作人先生のこと』編集と日中文化交流に捧げたその生涯―」中国文芸研究会『野草』(98)、64-102頁、査読有、 2016年

④ 鳥谷まゆみ、「越境的小品文：以中日小品文的互動為中心」『漢語言文学研究』2016年第4期、34-45頁、査読有、2016年

⑤ 鳥谷まゆみ、「周作人特集・特集にあたって」中国文芸研究会『野草』 (98)、1-3頁、 査読無、2016年

⑥ 鳥谷まゆみ、「鄭恵：周作人の初期自動研究に見いだされる日本の影響」中国文

芸研究会『野草』(98)、151-154頁、査読無、 2016年

⑦ 鳥谷まゆみ、「夏丏尊と日本―宏文学院留学と小品文受容を中心に―」立命館大学経済学会『立命館経済学』64(4)、386-406頁、査読有、2016年

〔学会発表〕(計 10 件)

① 鳥谷まゆみ、「周作人與四方太寫生文：文學言語創造的影響」シンポジウム『言與文：二十世紀東亜的文學與思想』、香港教育大学、 2017年

② 鳥谷まゆみ、「紙上之声與透明之文：周作人與四方太寫生文觀比較論」シンポジウム『漂泊與越境：東亜視域中的作家流徒與文學創生』、武漢大学、 2017年

③ 鳥谷まゆみ、「周作人與落語試論」シンポジウム『百年風華：華文文學與文化』、立教大学、 2017年

④ 鳥谷まゆみ、「少女から母へ―「傷逝」を女性の視点から読む」、立命館大学、2016年度第3回中国語圏地域人文学研究会研究例会『魯迅再読―魯迅作品から「近代」を読み解く』、2017年

⑤ 鳥谷まゆみ、「越境的小品文：以中日小品文的互動為中心」ワークショップ『跨文化語環中的文学形式工作坊』、北京大学、 2016年

⑥ 鳥谷まゆみ、「周作人‘美文’再攷―日本美文・写生文へのまなざしから」シンポジウム『越境する東アジア：20世紀の文学形式と思考の流動』、神戸市外国語大学、2016年

⑦ 鳥谷まゆみ、「合評：鄭恵：周作人の初期児童研究に見いだされる日本の影響」中国文芸研究会『野草』97号合評会、関西学院大学、2016年

⑧ 鳥谷まゆみ、「民国期の小品文について―青少年教育から文章愛好家青年の創出へ―」中国児童雑誌研究会、東京都立大学、2015年

⑨ 鳥谷まゆみ、「少年たちの小品文―校内誌『春暉』にみるその生活風景と自己表現―」中国文芸研究会10月例会、同志社大学、 2015年

⑩ 鳥谷まゆみ、「1920‐30年代の中国散文に関する一考察」中国語圏地域人文学研究会、立命館大学、 2015年

〔その他〕

ホームページ等

① 「越界的言與文:二十世紀東亞的文學與思想」工作坊
https://www.eduhk.hk/rccllc/view.php?m=1221&secid=1221&id=50185

② 「東亜視域中的作家流徒與文学創生」国際学術工作坊挙辦
http://chinese.whu.edu.cn/index.php/index-view-aid-7611.html

６．研究組織

(1)研究代表者

鳥谷 まゆみ（TORIYA, Mayumi）
北九州市立大学・外国語学部・准教授
研究者番号：00580507

(2)研究分担者 なし。

(3)連携研究者 なし。

(4)研究協力者

津守 陽（Tsumori, Aki）
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号：20609838